

佐渡市立高千小学校

令和6年度学校だより

令和6年6月4日 No.3

# しおかせ

いじめ見逃しゼロ 県民運動



いじめ見逃しゼロへ

校長 後藤 洋子

上段の横断幕やポスターをご存知でしょうか。6月は「いじめ見逃しゼロ強調月間」です。高千小学校の児童玄関にも、この横断幕が飾られています。平成25年度から新潟県内で行われている県民運動です。「いじめの未然防止や解消のためには、児童生徒、教職員、保護者、地域の人々が力を合わせて、明るい学校づくりに取り組んでいくことが大切です。県民運動をとおして、学校、家庭、地域の協力の輪を広げ、県民みんなで子どもたちを見守り、いじめを見逃さないようにしましょう。」と、提言されています。

全校朝会では、子どもたちにも分かるように、いじめの定義、いじめの類似行為等を以下のように示し、その後4つの問題を出題し、3択のハンドサインで挙手しました。

いじめ対策推進法で定められている いじめの定義

※1

**関係がある子ども** どうして

※2

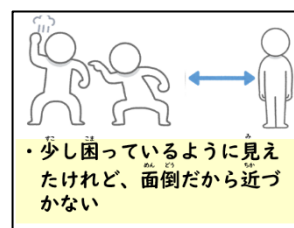
相手に対して何らかの**行動**があり  
された子どもが**心や体につらさ**や  
**痛み**を感じているもの

いじめ類似行為

インターネット上で悪口を書かれた子ども  
がいたが、**書かれた人がそのことを知らずに  
いるような場合**など

※1：友だち、同じ学校の子ども、習い事の子ども

※2：インターネットをとおして行われるものもあり



上記の問題は、すべて「まちがえている」が正解ですが、「正しい」と解答する子どもも見られました。これらは、いじめをする人の「シンキングエラー」（まちがった考え）で、どんなことをしてもいじめてはいけないと伝えました。

いじめ見逃し“ゼロ”のためには、いじめの加害者と被害者以外の周りの人の行動が大切です。加害者の周りには、直接的な行動に出ないけれども、被害者のいじめられている様子を見て面白がっている「観衆」がいます。その周りには、自分には関係ない、自分に害が及ばないようにしようと思っ  
て見ぬふりをする「傍観者」がいます。「観衆」や「傍観者」から、いじめを止めさせたり、大人へ助けを求めたりする「仲裁者」が出てくるのが大切です。アメリカ・クレムゾン大学 スーザン・リンバー教授は「いじめの介入に傍観者をどう生かすか」の調査に、「傍観者の中から勇気を出して『やめて』という人が出てくると、57%のいじめが10秒以内に収まる」とまとめています。子どもたちは、真剣に講話を聞いていました。いじめは、どこでも、どの子にも起こり得るという認識のもと、いじめ見逃し“ゼロ”になるよう学校、家庭、地域が協力して子どもたちを守っていきましょう。